



総合質管理(TQM)部ニュース

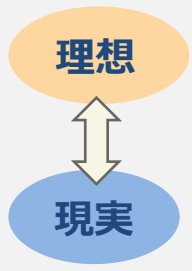
2025年2月号(第19号)



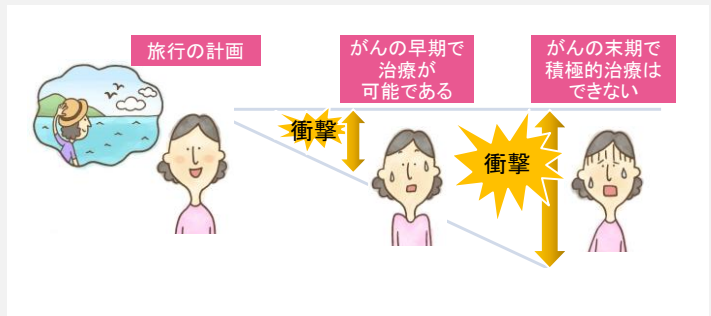
今月は、緩和ケア課とがん化学療法課の紹介です

緩和ケア課

終末期がん患者さんのスピリチュアルペインの捉え方についてご紹介します。
スピリチュアルペインとは「自己の存在と意味の消滅から生じる苦悩(村田久行)」を言います



スピリチュアルペインの強さは、理想と現実の差(ギャップ)が大きければ大きいほど、苦悩は大きくなります。
例えば、右図のように早期がんと末期がんの患者さんでは、衝撃の大きさ(苦悩)に差があります。



◎スピリチュアルペインにはどのようなものがあるのかというと・・・

◆人は将来が無いと今を頑張れない

↓
将来を喪う(時間性)
無意味・無目的・不条理
「生きる意味がない」
「何もする気がしない」

◆人は誰かと・何かと繋がりを持ちたい

↓
他者との関係性を喪う(関係性)
空虚・孤独感
「誰もわかってくれない」
「寂しい、離れたくない」

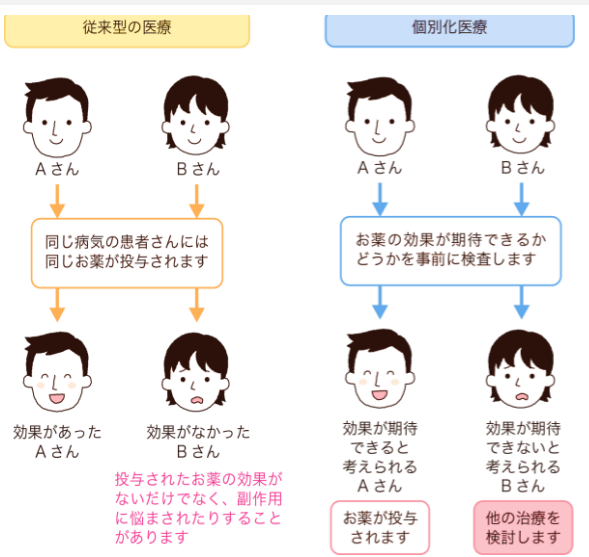
◆人は自律した存在である

↓
自己コントロール感を喪う(自律性)
無価値・無意味感・依存/負担感
「何の役にも立たない、情けない」
「人の世話になって、迷惑をかけている」

(文責) 緩和ケア認定看護師 新川 恵美

がん化学療法課

がん医療では、遺伝子情報にもとづく**個別化治療**が行なわれています!!(前回の続き)
今回は大腸癌の遺伝子検査にもとづいた個別化治療について紹介します



遺伝子異常の内容によって、同じ大腸癌で同じ治療をしても効果が得られる人と得られない人がいるため、予めどの遺伝子に変異があるか確認し、その個人に適した治療を選択します。

(文責) がん化学療法看護認定看護師 佐藤 絵美

大腸がんの遺伝子検査

- **RAS 遺伝子**：大腸がんの約半数に変異を認める
変異がある場合、抗 EGFR 抗体薬の効果が得られないため標準治療となる
- **B-RAF 遺伝子**：日本では 5%の頻度で変異がみられる。一般的に進行が早く予後不良
- **MSI(マイクロサテライト不安定性)検査**：
MSI-High は大腸癌の 3%ほどに認められるほか、遺伝性の病気であるリンチ症候群でも認められる
1 次治療より免疫チェックポイント阻害剤の適応となる
- **HER2 遺伝子**：HER2 蛋白陽性で HER2 抗体薬使用可能
- **UGT1A1**：副作用の発現を予測する

